

12月2日（木）に町内会役員を対象とした「町内会活性化講座（基礎編）」を、宮城野区の会場で開催しました。講座には27名の方にご参加いただき、Withコロナの地域コミュニティのヒントについて講義を聴いたのち、グループに分かれてワークショップを行いました。

《開催概要》

日時：令和3年12月2日（木）14:00～16:00

場所：宮城野区役所6階ホール

参加者：27名

内容：講義／ワークショップ／発表・まとめ

■ 講義

講師の(株)KITABA代表取締役 酒本宏氏から、コロナ禍で変化した町内会を取り巻く環境や、町内会が抱える課題、課題解決のための考え方やヒントなどの話題提供が行われました。



■ ワークショップの全体結果

ワークショップでは、6グループに分かれ、グループごとに「Withコロナの町内会運営に向けた最近の町内会の活動や課題」と「Withコロナに向けて求められる町内会の活動や取り組みのアイデア」を出し合いました。最後に、グループで出されたアイデアなどをそれぞれ発表し、全体で共有しました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

ワークショップ全体のまとめ

● コロナ禍で取り組んだ活動

- ・ 総会は書面表決にて対応
- ・ 清掃活動や資源回収、密にならない活動の実施
- ・ 「デジタル部」を創設し、ホームページの立ち上げ

● コロナ禍でできなかった活動

- ・ 人が集まるイベントや総会などの会合
- ・ サロン活動、レクリエーション活動、新年会
- ・ 町内会活動も全体的に減少

● 課題やお悩み

- ・ 役員の担い手不足、高齢化、固定化
- ・ 行事がないため会員の顔が見えない
- ・ イベントが中止になりノウハウが途切れる

● 今後の町内会活動に向けて

組織の見直し

- ・ アンケートを実施する
- ・ 高齢化や高齢者の見守りに対応できるよう町内会を再編する

SNSの活用

- ・ LINEを活用し、ピラミッド型からフラット型に移行する
- ・ デジタル部創設やHPの活用で若手を取り込む
- ・ 町内会だよりを月1回作成し活動を知らせる。将来的にはSNSを活用する
- ・ 広報活動として、紙面のお便り、TV、スマホ、QRコードを活用する

共感を得られる活動

- ・ 子どもや親が参加したくなるイベントを開催
- ・ 子どもや若い世代と高齢者の交流する機会をつくる
- ・ 地域合同でのまち歩きをし、地域を知る

グループごとの意見・アイデア

各グループでは、お祭りや高齢者サロンなどの交流事業を中心に多くの活動が自粛や中止を余儀なくされたことが共通していました。また、今後はSNSを活用することなどが挙げられました。

【活動状況】

1グループ

- 子どもたちが町内のまち歩きを行なった
- 今年から「デジタル部」を作り、ホームページを立ち上げてもらった

【アイデア】

- LINEを活用して会議を減らす
- ホームページの活用



【活動状況】

2グループ

- 町内の美化増進や防災を強化
- 行事がないため会員の顔が見えない

【アイデア】

- 若手が参加できるようにオンライン化を進める
- 子どもにボランティアで参加してもらう

【活動状況】

4グループ

- 小さなイベントを数多く実施
- イベントがすべて中止となり会員と会う機会がなくなった

【アイデア】

- 町内会だよりやSNSを活用して町内会でやっている事を知らせる
- 現在の役員から若手にバトンタッチする

【活動状況】

3グループ

- 近隣大学との共同掃除を実施
- (町内) 会則の見直しを行う
- LINEで役員会などを実施

【アイデア】

- 子どもと高齢者の交流機会をつくる
- 町内電柱を掲示板で活用する
- スマホ初級者講習会を開催する

【活動状況】

5グループ

- 総会は書面表決で対応
- ごみ集積所の清掃
- コロナで町内会活動全般が減少している

【アイデア】

- 役員の間接網の確認



【活動状況】

6グループ

- コロナで子どもたちの夏まつりや年配方のお茶会、イベント関連が中止
- 総会は2年連続書面表決にて対応
- 情報を早く知らせるべく回覧板を月1回から月2回に変更

【アイデア】

- 集会に公共施設が使用できないため、役員の間茶店を活用する
- 現状の役員選定の問題点を会員に知らせる